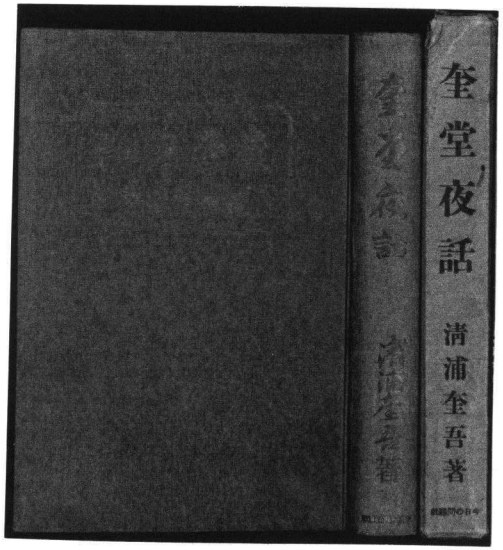清浦奎吾（きようらけいご）　政治家、漢詩人。嘉永二年一月十四日肥後国生れ、昭和十七年十一月五日死（一八五〇―一九四二）。号奎堂、奎堂學人、普救。咸宜園に学ぶ。明治九年司法省出仕、内務省警保局長、司法次官等を経て、二十四年貴族院議員。法相、農商務相、内相を歴任して、二十九年枢密顧問官、大正十一年枢密院議長。伯爵。漢詩の他書を能くして日本書道作振會會長、また観世流謡曲にも堪能。著書に『奎堂餘唾』（和田錦太・平野貞次郎同輯、明治二十四年八月十九日警察殺關社）、『奎堂詩存』（大正十五年十一月十五日、第一編・昭和十三年四月二十日中川吉郎刊）、『米壽庵奎堂夜話』（内題『明治天皇御事蹟に就て』昭和十一年十一月二十日鑑商・櫻井吉左衛館）、『奎堂夜話』（昭和十三年十月十八日、普及版・十四年二月十八日今日の問題社）等。